

昭和二十七年法律第二百九十九号

輸出入取引法

目次

- 第一章 総則(第一条・第二条)
- 第二章 輸取出引の公正(第三条・第四条)
- 第三章 輸出に関する協定(第五条―第七条)
- 第四章 輸出組合(第八条―第十九条)
- 第五章 輸入組合(第十九条の二―第二十七条)
- 第六章 輸出に関する命令(第二十八条―第三十二条の二)
- 第七章 雑則(第三十三条―第四十条の二)
- 第八章 罰則(第四十一条―第五十一条)

- 附則
- 第一章 総則
- (目的)
- 第一条 この法律は、不正な輸取出引を防止し、並びに輸取出引及び輸入取引の秩序を確立し、もつて外国貿易の健全な発展を図ることを目的とする。
- (定義)
- 第二条 この法律において「不正な輸取出引」とは、左に掲げるものをいう。
 - 一 仕向地の法令により保護される工業所有権又は著作権を侵害すべき貨物の輸取出引
 - 二 虚偽の原産地の表示をした貨物の輸取出引
 - 三 輸出契約において定める要件を著しく欠く貨物の輸出
 - 四 前各号に掲げるものの外、国際取引における公正な商慣習にもとる輸取出引であつて、政令で定めるもの
- 第二章 輸取出引の公正(不正な輸取出引の禁止)
- 第三条 輸出業者は、不正な輸取出引をしてはならない。
- (制裁)
- 第四条 経済産業大臣は、前条の規定に違反した輸業者に対し、戒告することができる。
- 2 経済産業大臣は、輸業者が前条の規定に違反し、当該違反行為が本邦の輸出業者の国際的信用を著しく害すると認められるときは、その輸業者が当該違反行為が故意又は過失によるものでないことを証明した場合を除き、前項の規定による戒告に代えて、その輸業者に対し、一年以内の期間を限り、品目又は仕向地を定めて貨物の輸出を停止すべきことを命ずることができる。

3 経済産業大臣は、前二項の規定による処分をしたときは、その旨を公表することができる。

第三章 輸出に関する協定

(輸出業者の輸取出引に関する協定)

第五条 輸出業者は、締結の日の十日前までに経済産業大臣に届け出て、特定の仕向地に輸出する特定の種類の貨物の輸取出引における価格、数量、品質、意匠その他の事項について協定を締結することができる。

2 経済産業大臣は、前項の規定による届出があつた場合において、届出に係る協定が次の各号に適合するものでないと認めるときは、その協定の締結前に、輸出業者に対し、その協定の變更を命じ、又はその締結を禁止しなければならない。

- 一 外国政府又は国際機関との間に締結された条約その他の取極に違反するおそれがないこと。
- 二 仕向地の輸入業者又は関係事業者の利益を害し、本邦の輸出業者の国際的信用を著しく害するおそれがないこと。
- 三 前二号のほか、輸出入貿易の健全な発展に支障を及ぼすおそれがないこと。
- 四 その内容が不当に差別でないこと。
- 五 その協定に参加し、又はその協定から脱退することを不当に制限しないこと。
- 六 国内の関係農林漁業者、関係中小企業者その他の関係事業者又は一般消費者の利益を不当に害するおそれがないこと。

(協定の変更命令等)

第六条 経済産業大臣は、輸出業者が第五条第一項の規定による届出をして締結した協定が同条第二項各号に適合するものでなくなつたと認めるときは、輸出業者に対し、その変更又は廃止を命じなければならない。

(協定の廃止の届出)

第七条 輸出業者は、第五条第一項の規定による届出をして締結した協定を廃止したときは、遅滞なく、その旨を経済産業大臣に届け出なければならない。

第四章 輸出組合

(法人格)

第八条 輸出組合は、法人とする。

(原則)

第九条 輸出組合は、左の要件を備えなければならない。

- 一 営利を目的としないこと。
- 二 組合員が任意に加入し、又は脱退することができること。
- 三 組合員の議決権及び選挙権は、平等であること。

(名称)

第十条 輸出組合は、その名称中に輸出組合という文字を用いなければならない。

2 輸出組合でない者は、その名称中に輸出組合という文字を用いてはならない。

第十一条 輸出組合は、左に掲げる事業を行うことができる。但し、組合員に投資をさせる輸出組合(以下「出資輸出組合」という。)、以外の輸出組合(以下「非出資輸出組合」という。)、は、第六号及び第七号の事業を行うことができな

一 輸出組合の所属員(輸出組合を直接又は間接に構成する者をいう。以下同じ。))の不正な輸取出引の防止

二 輸出に関する調査、宣伝、あつせん等輸出に関する海外市場の維持及び開拓

三 輸出すべき貨物の価格、品質、意匠その他の事項の改善

四 輸出に関する苦情及び紛争の処理

五 前各号の事業に附帯する事業

六 前四号に掲げるもののほか、輸出組合の所属員の共通の利益を増進するための施設

七 組合員に対する資金の貸付(手形の割引を含む。))及び組合員のためにするその借入

2 輸出組合は、前項に定めるもののほか、設定の日の十日前までに経済産業大臣に届け出て、定款で定めるところにより、特定の仕向地に輸出する特定の種類の貨物の輸取出引における価格、数量、品質、意匠その他の事項について組合員の遵守すべき事項を定めることができる。

3 第五条第二項、第六条及び第七条の規定は、前項の組合員の遵守すべき事項に準用する。

(組合員の資格)

第十二条 輸出組合の組合員たる資格を有する者は、左に掲げる者であつて、定款で定めるものとする。

- 一 輸出業者
- 二 輸出組合(出資)

第十二条の二 輸出組合は、定款で定めるところにより、組合員に投資をさせることができる。

(発起人)

第十三条 輸出業者をもつて組織する輸出組合を設立するには、その組合員とならうとする三十

人以上の輸出業者が、その他の輸出組合を設立するには、その組合員とならうとする二以上の輸出組合又は十人以上の輸出業者及び一以上の輸出組合が発起人となることを要する。

(設立の認可)

第十四条 発起人は、創立総会の終了後遅滞なく、定款並びに事業計画、役員の名及び住所その他必要な事項を記載した書面を提出して、経済産業大臣に、設立の認可を申請しなければならない。

2 経済産業大臣は、前項の認可の申請があつた場合において、設立しようとする輸出組合が左の各号に適合していると認めるときは、認可をしなければならない。

- 一 第九条各号の要件を備えていること。
- 二 設立手続並びに定款及び事業計画の内容が法令に違反しないこと。
- 三 その設立が輸取出引の秩序の確立に寄与するものであること。

(定款)

第十五条 輸出組合の定款には、少なくとも次に掲げる事項を定めなければならない。ただし、非出資輸出組合の定款には、第五号の二から第五号の四までの事項を記載し、又は記録しなくてもよい。

- 一 事業
- 二 名称
- 三 事務所の所在地
- 四 組合員たる資格に関する規定
- 五 組合員の加入及び脱退に関する規定
- 五の二 出資一口の金額及びその払込みの方法
- 五の三 剰余金の処分及び損失の処理に関する規定
- 五の四 準備金の額及びその積立の方法
- 六 組合員の権利義務に関する規定
- 七 事業の執行に関する規定
- 八 役員に関する規定
- 九 会議に関する規定
- 十 会計に関する規定
- 十一 公告方法(輸出組合が公告(この法律又は他の法律の規定により官報に掲載する方法によりしなければならないものとされているものを除く。))をする方法をいう。以下同じ。)

2 輸出組合の定款には、前項各号に掲げる事項のほか、輸出組合の存続期間又は解散の事由を定めたときは、その期間又は事由を、現物出資

をする者を定めたときは、その者の氏名、出資の目的である財産及びその価格並びにこれに對して与える出資口数を記載し、又は記録しなればならない。

3 輸出組合は、公告方法として、当該輸出組合の事務所の店頭に掲示する方法のほか、次に掲げる方法のいずれかを定款で定めることができる。

- 一 官報に掲載する方法
- 二 時事に関する事項を掲載する日刊新聞紙に掲載する方法
- 三 電子公告（公告方法のうち、電磁的方法（公社法（平成十七年法律第八十六号）第二十条第三十四号に規定する電磁的方法をいう。）により不特定多数の者が公告すべき内容である情報の提供を受けることができる状態に置く措置であつて同号に規定するもの）をとる方法（以下同じ。）

4 輸出組合が前項第三号に掲げる方法を公告方法とする旨を定款で定める場合には、その定款には、電子公告を公告方法とすることを定めれば足りる。この場合においては、事故その他やむを得ない事由によつて電子公告による公告をすることができない場合の公告方法として、同項第一号又は第二号に掲げる方法のいずれかを定めることができる。

5 輸出組合が電子公告により公告をする場合には、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める日までの間、継続して電子公告による公告をしなければならない。

- 一 公告に定める期間内に異議を述べることができる旨の公告 当該期間を経過する日
- 二 前号に掲げる公告以外の公告 当該公告の開始後一月を経過する日

6 輸出組合が電子公告によりこの法律その他の法令の規定による公告を行う場合については、会社法第九百四十条第三項（電子公告の中断）第九百四十一条、第九百四十六条、第九百四十七条、第九百五十一条第二項、第九百五十三条及び第九百五十五条（電子公告調査等）の規定を準用する。この場合において、同法第九百四十条第三項中「前二項の規定にかかわらず、これらの規定」とあるのは「輸出入取引法第十五条第五項の規定にかかわらず、同項」と読み替へるものとするほか、必要な技術的読替は、政令で定める。

7 第一項各号に掲げる事項及び第二項に規定する事項のほか、輸出組合の定款には、この法律

の規定により定款の定めがなければその効力を生じない事項及びその他の事項でこの法律に違反しないものを記載し、又は記録することができる。

（出資輸出組合への移行）
第十六条 非出資輸出組合は、定款を変更して、出資輸出組合に移行することができる。

2 中小企業等協同組合法（昭和二十四年法律第八十一号）第二十九条第一項から第三項まで（出資の第一回の払込み）の規定は、前項の規定による出資輸出組合への移行に準用する。この場合において、同条第一項中「前条の規定による引渡しを受けたとき」とあるのは「出資輸出組合への移行に関する定款の変更につき輸出入取引法第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第五十一条第二項の認可があつたとき」と、同条第三項中「組合成立」とあるのは「主たる事務所の所在地における輸出入取引法第十六条第三項の規定による登記」と読み替へるものとする。

3 輸出組合は、出資輸出組合に移行する場合には、主たる事務所の所在地において出資の第一回の払込みのあつた日から二週間以内に、定款の変更により新たに登記すべきこととなつた事項を登記しなければならない。

4 第一項の規定による出資輸出組合への移行は、主たる事務所の所在地において前項の規定による登記をすることによつてその効力を生ずる。

5 第三項の規定による登記の申請書には、出資輸出組合への移行を証する書面並びに出資の総口数及び出資の第一回の払込みのあつたことを証する書面を添付しなければならない。

6 総代会においては、第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第五十五条第六項の規定にかかわらず、出資輸出組合への移行に関する定款の変更について議決することができる。

（非出資輸出組合への移行）
第十七条 出資輸出組合は、定款を変更して、非出資輸出組合に移行することができる。

2 前条第三項から第六項まで並びに中小企業等協同組合法第二十条から第二十二条まで（持分の払戻し）、第五十六条から第五十七条まで（出資一口の金額の減少）の規定は、前項の規定による非出資輸出組合への移行に準用する。この場合において、前条第三項中「出資の第一

回の払込みのあつた日」とあるのは「次条第一項の規定による非出資輸出組合への移行に関する定款の変更について第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第五十一条第二項の認可があつた日」と、「新たに登記すべきこととなつた事項を登記しなければならない」とあるのは「登記を要しなくなつた事項の登記を抹消しなければならない」と、同条第五項中「出資の総口数及び出資の第一回の払込みのあつたことを証する書面」とあるのは「次条第二項において準用する中小企業等協同組合法第五十六条の二第二項の規定による公告及び催告（同条第三項の規定により公告を官報のほか時事に関する事項を掲載する日刊新聞紙又は電子公告によつてした輸出入取引法第十九条の方法による公告）をしたこと並びに異議を述べた債権者があるときは、当該債権者に対し、弁済し、若しくは相當の担保を提供し、若しくは当該債権者に弁済を受けさせることを目的として相當の財産を信託したこと又は当該非出資輸出組合への移行をしても当該債権者を害するおそれがないことを証する書面」と、中小企業等協同組合法第二十条第二項中「脱退した事業年度の終」とあるのは「非出資輸出組合への移行の時」と、同法第五十六条第二項第二号中「主務省令」とあるのは「経済産業省令」と読み替へるものとする。

3 第一項の規定による出資輸出組合が非出資輸出組合に移行する場合における所得税法（昭和四十年法律第三十三号）及び地方税法（昭和二十五年法律第二十六号）の規定の適用については、当該出資輸出組合は、当該非出資輸出組合に移行した時において解散したものとみなす。

（解散）
第十八条 経済産業大臣は、輸出組合が左の各号の一に該当すると認めるときは、その輸出組合の解散を命ずることができる。

- 一 第十四条第二項各号に適合するものでなくなつたとき。
- 二 定款に定める事業以外の事業を行つたとき。

（準用）
第十九条 中小企業等協同組合法第四条第二項（住所）、第九条の二第三項（事業協同組合及び事業協同小組合）、第十二条の二から第十四条まで、第十九条（第一項第四号を除く。）（組合

員）、第二十七条、第二十八条、第三十条、第三十二条（設立）、第三十四条（規約）、第三十四条の二（定款の備置き及び閲覧等）、第三十五条（第五項を除く。）、第三十五条の二から第三十六条の三まで、第三十六条の五から第三十六条の八まで、第三十七條第一項、第三十八条から第四十条まで、第四十一条から第四十五条まで（役員等）、第四十六条から第五十二条まで（役員等）、第四十六条から第五十二条まで（役員等）、第五十三条（第五号を除く。）、第五十三条の二から第五十五条まで（総会及び総代会）、第五十七条の五（余裕金運用の制限）、第五十七条の六（会計の原則）、第六十二条第一項及び第二項、第六十三条から第六十三条の三まで、第六十三条の四第三項、第六十三条の五第三項本文、第六十三条の六第三項、第六十四条第一項から第五項まで、第六十五条から第六十七条まで、第六十八条第一項、第六十九条（解散及び清算並びに合併）、第八十三条から第九十二条まで（第八十四条第二項第三号及び第五号、第三項並びに第四項、第八十五条第二項、第八十六条第二号、第八十七条第二号並びに第九十二条第二号を除く。）、第九十六条から第九十九条まで（第九十六条第二項、第九十八条第二項及び第九十九条第二項を除く。）、（登記）並びに第九十九条、第一百零五条（第三項）、第一百五十五条の四第一項、第六項及び第七項並びに第九十六条第一項（雑則）の規定は、輸出組合について準用する。この場合において、同法第十条の二第三項第一号、第十一條第三項、第二十七條第七項、第三十四條の二第二項第二号及び第三項、第三十六條の三第二項、第三項及び第五項、第三十六條の七第一項、第二項、第四項及び第五項第二号、第三十八條の二第五項及び第八項、第三十八條の六、第三十九條、第四十条第一項、第二項、第五項、第七項、第十一項及び第十二項第三号、第四十一条第一項及び第三項第二号、第四十七條第四項、第五十一条第四項、第五十三條の二、第五十三條の四第一項、第三項及び第四項第二号、第五十七條の五、第六十三條の二第六号、第六十三條の三第五号並びに第六十九條中「主務省令」とあるのは「経済産業省令」と、同法第二十八条中「前条第一項」とあるのは「輸出入取引法第十四條第一項」と、同法第三十五條の二、第四十八條、第五十一条第二項、第五十七條、第六十二条第二項、第六十五条第一項、第六十六條第一項、第九十六條第五項、第四百

条、第五十五条、第五十五条の三第二項、第五十五条の四第一項及び第六十六条第一項中「行政庁」とあるのは「経済産業大臣」と、同法第五十一条第一項中「二 規約及び共済規程又は火災共済規程の設定、変更又は廃止」とあるのは「二 規約の設定、変更又は廃止／＼の二 輸出入取引法第十一条第二項の組合員の遵守すべき事項の設定又は廃止」と、同法第五十三条第四号中「事業の全部の譲渡」とあるのは「輸出入取引法第十一条第二項の組合員の遵守すべき事項の設定又は廃止」と、同法第五十五条第一項中「二百人の」とあるのは「百人」と、同条第三項中「十分の一」とあるのは「五分の一」と、「千人」とあるのは「五百人」と、同条第七項中「第二号若しくは第四号」とあるのは「第二号」と、同法第六十二条第一項第五号及び第九十六条第五項中「第六十六条第二項」とあるのは「輸出入取引法第十八条」と、同法第八十四条第一項中「第二十九条の規定による出資の払込み」とあるのは「非出資輸出組合にあつては「輸出入取引法第十四条第一項の認可」と、同法第九十七条第一項中「事業協同組合登記簿、事業協同小組合登記簿、信用協同組合登記簿、中小企業等協同組合連合会登記簿、企業組合登記簿及び中小企業団体中央会登記簿」とあるのは「輸出組合登記簿」と、同法第九十八条第二項第一号中「書面並びに出資の総口数及び第二十九条の規定による出資の払込みのあつたことを証する書面」とあるのは「非出資輸出組合にあつては「書面」と読み替えるものとするほか、必要な技術的読替は、政令で定める。

2 中小企業等協同組合法第九条の二十第十項（事業協同組合及び事業協同小組合）、第十條第一項、第二項、第三項（ただし書を除く。）及び第四項から第六項まで（出資）、第十五條から第十八條まで（加入及び脱退等）、第二十條から第二十三條まで（持分等）、第二十九條第一項から第三項まで（出資の第一回の払込み）、第五十六條から第五十七條まで（出資一口の金額の減少）、第五十八條第一項から第三項まで（準備金）、第五十九條第一項及び第二項、第六十條、第六十一條（剰余金の配当等）、第六十三條の四（第三項を除く。）、第六十三條の五（第三項本文を除く。）、第六十三條の六（第三項を除く。）、第六十四條第六項から第八項まで（合併の手続）並びに第八十四條第二項第五号、第八十五條第二項、第九十六條第二項及び第九

十九條第二項（登記）の規定は、出資輸出組合について準用する。この場合において、同法第十條第三項中「出資総口数の百分の二十五（信用協同組合にあつては、百分の十）」とあるのは「出資総口数の百分の十」と、同法第四項中「三人」とあるのは「九人」と、同法第十八條第一項中「脱退することができ」とあるのは「脱退することができ。ただし、輸出入取引法第十七條第一項の規定により出資輸出組合が非出資輸出組合に移行する場合には、移行の日の前日までに予告し、その移行の時に脱退することができ」と、同法第二十条第二項中「定める」とあるのは「定める。ただし、輸出入取引法第十七條第一項の規定により出資輸出組合が非出資輸出組合に移行する場合には、移行の時に移れる組合財産によつて定め」と、同法第五十六條第二項第二号、第六十三條の四第一項並びに第二項第二号及び第四号、第六十三條の五第一項、第二項第三号、第八項及び第十項第三号、第六十三條の六第一項及び第二項第三号並びに第六十四條第六項及び第八項第三号中「主務省令」とあるのは「経済産業省令」と読み替えるものとする。

第五章 輸入組合

第十九條の二 輸入組合は、法人とする。

第十九條の三 削除

第十九條の四 輸入組合は、次に掲げる事業を行なうことができる。ただし、組合員に出資をさせる輸入組合（以下「出資輸入組合」という。）以外の輸入組合（以下「非出資輸入組合」という。）は、第五号の事業を行なうことができない。

- 輸入に関する調査、あつせん等輸入に関する海外市場の維持及び開拓
- 輸入すべき貨物の価格、品質その他の事項の改善
- 輸入に関する苦情及び紛争の処理
- 前各号の事業に附帯する事業
- 前四号に掲げるもののほか、輸入組合の組合員の共通の利益を増進するための施設

（組合員の資格）

第十九條の五 輸入組合の組合員たる資格を有する者は、輸入業者であつて、定款で定めるものとする。

（準用）

第十九條の六 第四章（第八条、第十一条及び第十二条を除く。）の規定は、輸入組合に準用す

る。この場合において、第十三條中「三十人」とあるのは「十人」と、第十九條第一項中「輸出組合登記簿」とあるのは「輸入組合登記簿」と読み替えるものとする。

第二十条から第二十七條まで 削除

第六章 輸出に関する命令

第二十八條 経済産業大臣は、第五條第一項の規定による届出をして協定を締結し、又は第十一条第二項の規定による届出をして定めた組合員の遵守すべき事項の適用を受けている輸出業者の当該仕向地に対する当該貨物の輸出額が当該仕向地に対する当該貨物の総輸出額に対し相当の比率を占めている場合において、その協定又は組合員の遵守すべき事項をもつてしては輸出取引の秩序の確立又は輸出貿易の健全な発展に對して生じている著しい支障を除去することが困難であると認めるときは、政令で定めるところにより、経済産業省令で、当該仕向地に輸出する当該貨物の輸出取引における価格、品質、意匠その他の取引条件又は数量について輸出業者の遵守すべき事項を定めることができる。

2 経済産業大臣は、前項の規定に該当する場合において、同項に規定する事由を除去するための措置として、当該仕向地に輸出する当該貨物の輸出取引における価格、品質、意匠その他の取引条件又は数量を定める経済産業省令を制定することができる。ただし、政令で定めるところにより、経済産業省令で、輸出業者は、当該仕向地に当該貨物を輸出しようとするときは、その輸出取引における価格、品質、意匠その他の取引条件又は数量について経済産業大臣の承認を受けなければならないものとする。ただし、外国為替及び外国貿易法（昭和二十四年法律第二百二十八号）第四十八條第三項の規定に基づく政令の規定により経済産業大臣の輸出の承認を受けるべき特定の種類の又は特定の地域を仕向地とする貨物については、この限りでない。

3 前二項の経済産業省令による制限は、第一項に規定する事由を除去するため必要な最少限度のものでなければならない。

4 経済産業大臣は、第一項又は第二項の経済産業省令に違反した者に対し、一年以内の期間を限り、品目又は仕向地を定めて貨物の輸出を停止すべきことを命ずることができる。

5 経済産業大臣は、第一項又は第二項の経済産業省令を制定する場合において、その経済産業

省令の円滑な実施を図るため特に必要があると認めるときは、政令で定めるところにより、その経済産業省令に係る事務の一部を輸出組合に処理させることができる。

6 前項の規定により第一項又は第二項の経済産業省令に係る事務を輸出組合に処理させることができる場合は、第十一条第二項の規定による届出をして組合員の遵守すべき事項を定めている輸出組合の組合員であつて当該仕向地に当該貨物を輸出するものの数が当該仕向地に当該貨物を輸出する輸出業者の総数の二分の一以上であり、かつ、その輸出組合から申出があつた場合に限る。

第二十八條の二 前条第五項の規定により同条第一項又は第二項の経済産業省令に係る事務を処理する輸出組合は、当該事務の処理に必要な費用に充てるため、当該仕向地に当該貨物を輸出する輸出業者から、政令で定める範囲内において、負担金を徴収することができる。

2 輸出組合は、前項の規定により負担金を徴収しようとするときは、政令で定めるところにより、負担金の額及び徴収の方法を定め、当該事務の処理に関する計画及び収支予算を添えて、経済産業大臣の認可を受けなければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。

3 輸出組合は、第一項の負担金及びこれを運用した場合に生ずる利子に係る経理については、政令で定めるところにより、その他の経理と区分し、特別の勘定を設けて整理しなければならない。

4 中小企業等協同組合法第五十五条の規定は、第一項の規定により負担金を納付した輸出業者について準用する。この場合において、同条中「行政庁」とあるのは、「経済産業大臣」と読み替えるものとする。

5 前四項に定めるもののほか、第一項の負担金に関し必要な事項は、政令で定める。

第二十九條から第三十一條まで 削除

（秘密保持義務）

第三十二條 第二十八條第五項の規定により同条第一項若しくは第二項の経済産業省令（以下「規制命令」という。）に係る事務を処理する輸出組合の役員若しくは職員であつてその事務に従事するもの又はこれらに職にあつた者は、その職務に関して知得した秘密を漏らし、又は盗用してはならない。

三年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処する。

2 前項の罪を犯した者が自首したときは、その刑を減輕し、又は免除することができる。

第四十二条 第四条第二項又は第二十八条第一項、第二項若しくは第四項の規定による命令又は処分を違反した者は、二年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処する。

第四十三条 次の各号のいずれかに該当する者は、一年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。

一 第五条第一項の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をして同項に規定する協定を締結した者

二 第五条第二項又は第六条の規定による命令又は処分を違反した者

三 第三十二条の規定に違反して、その職務に關して知得した秘密を漏らし、又は盗用した者

第四十四条 次の場合には、その行為をした輸出組合の理事は、一年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。

一 第十一条第二項の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をして、同項に規定する組合員の遵守すべき事項を定めたとき。

二 第十一条第三項において準用する第五条第二項又は第六条の規定による命令又は処分を違反したとき。

第四十五条 次の各号のいずれかに該当する者は、三十万円以下の罰金に処する。

一 第七条（第十一条第三項において準用する場合を含む。）の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をした者

二 第十条第二項（第十九条の六において準用する場合を含む。）の規定に違反した者

三 第十九条第一項（第十九条の六において準用する場合を含む。）において準用する中小企業等協同組合法第五十五条第二項若しくは同法第五十五条の四第一項又はこの法律第二十八条の二第四項において準用する中小企業等協同組合法第五十五条第二項の規定による検査を拒み、妨げ、又は忌避した者

四 第四十条の規定による報告をせず、又は虚偽の報告をした者

第四十六条 輸出組合又は輸入組合が第十九条第一項（第十九条の六において準用する場合を含む。）において準用する中小企業等協同組合法

第六十六条第一項の規定による命令に違反した場合には、その輸出組合又は輸入組合の理事は、三十万円以下の罰金に処する。

第四十七条 第十五条第六項（第十九条の六において準用する場合を含む。）において準用する会社法第九百五十五条第一項の規定に違反して、同項に規定する調査記録簿等に同項に規定する電子公告調査に關し法務省令で定めるものを記載せず、若しくは記録せず、若しくは虚偽の記載若しくは記録をし、又は調査記録簿等を保存しなかつた者は、三十万円以下の罰金に処する。

第四十八条 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務に關し、第四十二条、第四十三条第一号若しくは第二号、第四十五条又は前条の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対して各本条の罰金刑を科する。

（過料）
第四十九条 次の各号のいずれかに該当する者は、百万円以下の過料に処する。

一 第十五条第六項（第十九条の六において準用する場合を含む。）次号において同じ。）において準用する会社法第九百四十六条第三項の規定に違反して、報告をせず、又は虚偽の報告をした者

二 正当な理由がないのに、第十五条第六項において準用する会社法第九百五十一条第二項各号又は第九百五十五条第二項各号に掲げる請求を拒んだ者

第五十条 次に掲げる場合には、輸出組合又は輸入組合の発起人、役員又は清算人は、二十万円以下の過料に処する。

一 この法律の規定による登記をすることを怠つたとき。

二 第十五条第六項（第十九条の六において準用する場合を含む。）において準用する会社法第九百四十一条の規定に違反して、同条の調査を求めなかつたとき。

三 第十九条第一項（第十九条の六において準用する場合を含む。）以下この条において同じ。）において準用する中小企業等協同組合法第九條の二第三項の規定に違反したとき。

四 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第十條の二、第三十四條の二又は第四十條（同条第一項、第十一項及び第

十三項を除く。）の規定を第十九条第一項において準用する同法第六十九条において準用する場合を含む。）の規定に違反して、書類若しくは電磁的記録に記載し、若しくは記録すべき事項を記載せず、若しくは記録せず、若しくは虚偽の記載若しくは記録をし、又は正当な理由がないのに書類若しくは電磁的記録に記載された事項を經濟産業省令で定める方法により表示したものの閲覧若しくは謄写若しくは書類の謄本若しくは抄本の交付、電磁的記録に記載された事項を電磁的方法により提供すること若しくはその事項を記載した書面の交付を拒んだとき。

五 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第十四條の規定に違反したとき。

六 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第十九條第二項、第四十二條第五項若しくは第六項又は第四十五條第五項若しくは第六項の規定に違反したとき。

七 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第二十七條第七項、第三十六條の七第一項（第十九条第一項において準用する同法第六十九条において準用する場合を含む。）若しくは第五十三條の四第一項の規定又は第十九条第一項において準用する同法第六十九條の六において準用する会社法第四百九十二條第一項の規定に違反して、議事録若しくは財産目録若しくは貸借対照表を作成せず、又はこれらの書類若しくは電磁的記録に記載し、若しくは記録すべき事項を記載せず、若しくは記録せず、若しくは虚偽の記載若しくは記録をしたとき。

八 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十五條第六項の規定に違反して、同項に規定する者に該当する者を監事に選任しなかつたとき。

九 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十五條第七項の規定に違反したとき。

十 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十五條の二又は第六十二條第二項の規定に違反したとき。

十一 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十六條の三第三項において準用する会社法第三百四十三條第二項の規

定による請求があつた場合において、その請求に係る事項を總會の目的とせず、又はその請求に係る議案を總會に提出しなかつたとき。

十二 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十六條の三第三項において準用する会社法第三百八十一条第二項若しくは第三百八十四条の規定、第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十六條の三第五項において準用する会社法第三百八十九條第五項の規定又は第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第六十九條において準用する会社法第三百八十九條第二項、第三百八十四條若しくは第四百九十二條第一項の規定による調査を妨げたとき。

十三 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十六條の三第五項において準用する会社法第三百八十九條第四項の規定又は第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十六條の七第五項（第十九条第一項において準用する同法第六十九條第三項若しくは第五十三條の四第四項の規定に違反して、正当な理由がないのに書面又は電磁的記録に記載された事項を經濟産業省令で定める方法により表示したものの閲覧又は謄写を拒んだとき。

十四 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十七條第一項（第十九条第一項において準用する同法第六十九條において準用する場合を含む。）の規定に違反したとき。

十五 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十八條第一項（第十九条第一項において準用する同法第六十九條において準用する場合を含む。）又は第三十八條の二第六項の規定による開示をすることを怠つたとき。

十六 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十八條第三項（第十九条第一項において準用する同法第六十九條において準用する場合を含む。）又は第三十八條の五第四項の規定に違反して、理事会に報告せず、又は虚偽の報告をしたとき。

十七 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第四十六条の規定に違反したとき。

十八 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第五十七条の五の規定に違反したとき。

十九 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第六十九条において準用する会社法第四百八十四条第一項の規定に違反して、破産手続開始の申立てを怠つたとき。

二十 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第六十九条において準用する会社法第四百九十九条第一項の規定による公告をすることを怠つたとき、又は不正の公告をしたとき。

二十一 清算の結了を遅延させる目的で、第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第六十九条において準用する会社法第六十九条において準用する会社法第四百九十九条第一項の期間を不当に定めたととき。

二十二 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第六十九条において準用する会社法第五百条第一項の規定に違反して、債務の弁済をしたとき。

二十三 第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第六十九条において準用する会社法第五百二条の規定に違反して、輸出組合又は輸入組合の財産を分配したとき。

2 会社法第九百七十六条に規定する者が、第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十六条の三第三項において準用する会社法第三百八十一条第三項又は第十九条第一項において準用する中小企業等協同組合法第三十六条の三第五項において準用する会社法第三百八十九条第五項の規定による調査を妨げたときも、前項と同様とする。

第五十一条 次に掲げる場合には、出資輸出組合又は出資輸入組合の発起人、役員又は清算人は、二十万円以下の過料に処する。

一 第十九条第二項（第十九条の六において準用する場合を含む。以下この条において同じ。）において準用する中小企業等協同組合法第五十六条第一項若しくは第五十六条の二第五項の規定に違反して出資一口の金額を減少し、又は第十九条第二項において準用する同法第六十三条の四第五項、第六十三条の五第七項若しくは第六十三条の六第五項において

て準用する同法第五十六条の二第五項の規定に違反して出資輸出組合若しくは出資輸入組合の合併をしたとき。

二 第十九条第二項において準用する中小企業等協同組合法第五十八条第一項から第三項まで又は第五十九条第一項若しくは第二項の規定に違反したとき。

三 第十九条第二項において準用する中小企業等協同組合法第六十一条の規定に違反して、組合員の持分を取得し、又は質権の目的としてこれを受けたとき。

四 第十九条第二項において準用する中小企業等協同組合法第六十三条の四第一項若しくは第二項、第六十三条の五第一項、第二項若しくは第八項から第十項まで、第六十三条の六第一項若しくは第二項又は第六十四条第六項から第八項までの規定に違反して、書類若しくは電磁的記録を備え置かず、書類若しくは電磁的記録に記載し、若しくは記録すべき事項を記載せず、若しくは記録せず、若しくは虚偽の記載若しくは記録をし、又は正当な理由がないのに書類若しくは電磁的記録に記載された事項を経済産業省令で定める方法により表示したものの閲覧若しくは謄写を拒んだとき。

五 第十九条第二項において準用する中小企業等協同組合法第六十三条の四第五項、第六十三条の五第七項又は第六十三条の六第五項において準用する同法第五十六条の二第二項の規定による公告をすることを怠つたとき、又は不正の公告をしたとき。

附則 抄
一 この法律の施行期日は、公布の日から起算して二月をこえない期間内において政令で定める。

附則 抄
一 この法律の施行期日は、公布の日から起算して二月をこえない期間内において政令で定める。

附則 抄
一 この法律の施行期日は、公布の日から起算して二月をこえない範囲内において政令で定める。

附則 抄
一 この法律は、公布の日から起算して三十日を経過した日から施行する。

第二十四条 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附則 抄
一 この法律の施行期日は、公布の日から起算して二月をこえない範囲内において政令で定める。

2 改正前の輸出取引法の規定によつてした処分、手続その他の行為は、改正後の輸出取引法中これに相当する規定があるときは、改正後の輸出入取引法の規定によつてしたものと同みなす。

3 この法律の施行前に輸出業者が改正前の第五条第一項の認可を受けて締結した協定又は輸出組合が改正前の第十一条第二項の認可を受けて定めた組合員の遵守すべき事項であつて輸出すべき貨物の国内取引における価格、数量、品質、意匠その他の事項を内容としながらも、改正後の第五条第一項又は第十一条第二項の規定による届出をして締結し、又は定めたもののみならず。

15 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附則 抄
一 この法律は、公布の日から起算して三月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 抄
一 この法律は、中小企業団体の組織に関する法律（昭和三十三年法律第八十五号）の施行の日から施行する。

附則 抄
一 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 抄
一 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 抄
一 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

（経過措置）
第二条 この法律の施行の際現に存する出資輸出組合、出資輸入組合又は出資輸出組合（以下

「出資輸出組合等」という。）が、この法律の施行の日から起算して一年以上、この法律による改正後の輸出入取引法（以下「新法」という。）第十七条第一項（第十九条の六又は第二十七條において準用する場合を含む。）の規定により非出資輸出組合、非出資輸入組合又は非出資輸出組合（以下「非出資輸出組合等」という。）に移行する場合においては、同条第三項（第十九条の六又は第二十七條において準用する場合を含む。）の規定は、適用しない。

2 前項に規定する場合において、当該移行に際し、当該出資輸出組合等が当該組合の組合員に係る持分の贈与を受けたときは、当該非出資輸出組合等への移行の日を含む事業年度の所得に対する法人税法の規定の適用については、当該贈与を受けた持分の価額は、当該事業年度の所得の計算上、益金に算入しない。

3 前項の贈与をした組合員の当該贈与をした日を含む年又は事業年度の所得の計算については、当該贈与をした持分の価額は、個人にあつては当該持分に係る出資の金額、法人にあつては当該持分に係る帳簿価額による。

4 第一項に規定する場合において、出資輸出組合等が事業年度中途において非出資輸出組合等に移行したときにおける法人税法及び地方税法の規定の適用については、当該組合の事業年度は、その移行の日を終了し、これに続く事業年度は、その移行の日の翌日から開始するものとする。

5 法人税法第五条第一項第四号及び地方税法第七十二条の五第一項第四号の規定は、第一項に規定する場合における非出資輸出組合等については、当該移行の日の翌日から開始する事業年度分の法人税及び事業税から適用する。

第三条 この法律の施行の際現にその名称中に貿易連合という文字を用いている者は、この法律の施行後六月以内にその名称を変更しなければならぬ。

2 新法第二十七條の四第二項の規定は、前項の期間内は、同項に規定する者には適用しない。

附則 抄
一 この法律は、昭和三十七年十月一日から施行する。

附則 抄
一 この法律は、昭和三十七年十月一日から施行する。

2 この法律による改正後の規定は、この附則に特別の定めがある場合を除き、この法律の施行前に生じた事項にも適用する。ただし、この法

(施行期日)
第一条 この法律は、平成十年四月一日から施行する。

附則 (平成九年六月六日法律第七二号) 抄
(施行期日)

1 この法律は、商法等の一部を改正する法律(平成九年法律第七十一号)の施行の日から施行する。

附則 (平成九年六月二〇日法律第九六号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一月を経過した日から施行する。

第五条 この法律の施行の際現に存する第十二条の規定による改正前の輸出入取引法(次項において「旧法」という。)第五条の第三項の認可を受けて締結した協定及びこれに基づいてする行為については、この法律の施行の日から起算して三月間は、なお従前の例による。

2 旧法第三十条第三項において準用する旧法第二十八条第五項の規定により旧法第三十条第二項の通商産業省令に係る事務を処理する輸入組合の役員又は職員であつた者に係るその職務に關して知り得た秘密を漏らし、又は盗用してはならない義務については、なお従前の例による。

(罰則に関する経過措置)
第十六条 この法律の施行前にした行為並びに附則第三条第一項及び第四条第一項の規定によりなお効力を有することとされる場合並びに附則第五条、第六条、第七条第一項及び第八条第一項の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

附則 (平成二一年二月二日法律第二一六〇号) 抄
(施行期日)
第一条 この法律(第二条及び第三条を除く。)は、平成十三年一月六日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
一 第九百九十五条(核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の一部を改正する法律附則の改正規定に係る部分に限る。)

、第一千三百五号、第一千三百六号、第一千三百二十四条第二号、第一千三百二十六条第二項及び第一千三百四十四条の規定 公布の日

附則 (平成一七年四月二七日法律第三五号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則 (平成一七年七月二六日法律第八七号) 抄
この法律は、会社法の施行の日から施行する。

附則 (平成一八年六月二日法律第五〇号) 抄
この法律は、一般社団・財団法人法の施行の日から施行する。

附則 (平成一八年六月一五日法律第七五号) 抄
(施行期日)

第一条 この法律は、平成十九年四月一日から施行する。
(輸出入取引法の一部改正に伴う経過措置)
第二十四条 この法律の施行の際現に存する輸出入組合については、第二条の規定による改正後の輸出入取引法(以下「新輸出入法」という。)第十九条第一項において準用する新協同組合法第三十五条第六項の規定は、施行日以後最初に終了する事業年度に係る決算に関する通常総会の終了の時までは、適用しない。

2 この法律の施行の際現に存する輸入組合については、新輸出入法第十九条の六において準用する新輸出入法第十九条第一項において準用する新協同組合法第三十五条第六項の規定は、施行日以後最初に終了する事業年度に係る決算に関する通常総会の終了の時までは、適用しない。

第二十五条 この法律の施行の際現に存する輸出組合又は輸入組合の役員であつて施行日以後最初に終了する事業年度に係る決算に関する通常総会の終了前に在任するものの任期に關しては、この法律の施行後も、なお従前の例による。

第二十六条 この法律の施行の際現に存する輸出入組合については、新輸出入法第十九条第一項において準用する新協同組合法第三十六条の三の規定は、施行日以後最初に終了する事業年度に係る通常総会の終了前には、なお従前の例による。

係る決算に関する通常総会の終了の時から適用し、当該通常総会の終了前は、なお従前の例による。

2 この法律の施行の際現に存する輸入組合については、新輸出入法第十九条の六において準用する新輸出入法第十九条第一項において準用する新協同組合法第三十六条の三の規定は、施行日以後最初に終了する事業年度に係る決算に関する通常総会の終了の時から適用し、当該通常総会の終了前には、なお従前の例による。

第二十七条 この法律の施行の際現に存する輸出入組合については、新輸出入法第十九条第一項において準用する新協同組合法第三十六条の七第一項の規定は、施行日以後最初に終了する事業年度に係る決算に関する通常総会の終了の時から適用し、当該通常総会の終了前には、なお従前の例による。

2 この法律の施行の際現に存する輸入組合については、新輸出入法第十九条の六において準用する新輸出入法第十九条第一項において準用する新協同組合法第三十六条の七第一項の規定は、施行日以後最初に終了する事業年度に係る決算に関する通常総会の終了の時から適用し、当該通常総会の終了前には、なお従前の例による。

第二十八条 第二条の規定による改正前の輸出入取引法(以下「旧輸出入法」という。)の規定による役員の前日からの行為に基づく損害賠償責任については、なお従前の例による。

第二十九条 この法律の施行の際現に新輸出入法第十九条第一項において準用する新協同組合法第五十七条の五に規定する方法以外でその業務上の余裕金を運用する輸出組合(組合員の総数が同条に規定する政令で定める基準を超えるものに限る。)は、施行日から起算して三年を経過する日までの間に当該運用に係る資産を処分しなければならない。

2 この法律の施行の際現に新輸出入法第十九条の六において準用する新輸出入法第五十七条の五に規定する方法以外でその業務上の余裕金を運用する輸入組合(組合員の総数が同条に規定する政令で定める基準を超えるものに限る。)は、施行日から起算して三年を経過する日までの間に当該運用に係る資産を処分しなければならない。

第五十三条 旧協同組合法、旧輸出入法、旧輸出水産業法、旧団体法、旧鉱工業組合法又は旧商

店街組合法の規定によつてした処分、手続その他の行為は、それぞれ新協同組合法、新輸出入法、新輸出水産業法、新団体法、新鉱工業組合法又は新商店街組合法の相当規定によつてしたものとみなす。

(罰則に関する経過措置)
第五十四条 この法律の施行前にした行為及びこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

(政令への委任)
第五十五条 附則第二条から第五十二条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置は、政令で定める。

(検討)
第五十六条 政府は、この法律の施行後五年を経過した場合において、この法律の施行の状況について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。

附則 (平成二〇年三月三一日法律第九号) 抄
(施行期日)
第一条 この法律は、平成二十年四月一日から施行する。ただし、次条の規定は、所得税法等の一部を改正する法律(平成二十年法律第二十三号)の公布の日から施行する。

附則 (平成二〇年四月三〇日法律第二一号) 抄
(施行期日)
第一条 この法律は、平成二十年四月一日から施行する。

(輸出入取引法の一部改正に伴う経過措置)
第二十四条 施行日前に前条の規定による改正前の輸出入取引法第十六条第一項の規定により移行が行われた場合の事業年度については、なお従前の例による。

附則 (平成二〇年四月三〇日法律第二三三号) 抄
(施行期日)
第一条 この法律は、平成二十年四月一日から施行する。

(輸出入取引法の一部改正に伴う経過措置)
第九十九条 施行日前に前条の規定による改正前の輸出入取引法第十六条第一項の規定により移

行が行われた場合の事業年度については、なお従前の例による。

第百十九條 この法律（附則第一条各号に掲げる規定にあつては、当該規定。以下この条において同じ。）の施行前にした行為及びこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（この法律の公布の日が平成二十年四月一日後となる場合における経過措置）
第百十九條の二 この法律の公布の日が平成二十年四月一日後となる場合におけるこの法律による改正後のそれぞれの法律の規定の適用に関し必要な事項（この附則の規定の読替えを含む）その他のこの法律の円滑な施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

（その他の経過措置の政令への委任）
第百二十條 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附則（平成二十三年六月二四日法律第七四号）抄
第一条 この法律は、公布の日から起算して二十日を経過した日から施行する。
附則（平成二十四年九月一二日法律第八五号）抄
第一条 この法律は、平成二十六年四月一日から施行する。

附則（平成二五年一月一三日法律第九〇号）抄
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附則（平成二六年六月一三日法律第六九号）抄
第一条 この法律は、行政不服審査法（平成二十六年法律第六十八号）の施行の日から施行する。

（経過措置の原則）
第五条 行政庁の処分その他の行為又は不作為についての不服申立てであつてこの法律の施行前

にされた行政庁の処分その他の行為又はこの法律の施行前にされた申請に係る行政庁の不作為に係るものについては、この附則に特別の定めがある場合を除き、なお従前の例による。

（訴訟に関する経過措置）
第六条 この法律による改正前の法律の規定により不服申立てに対する行政庁の裁決、決定その他の行為を経た後でなければ訴えを提起できないこととされる事項であつて、当該不服申立てを提起しないでこの法律の施行前にこれを提起すべき期間を経過したもの（当該不服申立てが他の不服申立てに対する行政庁の裁決、決定その他の行為を経た後でなければ提起できないこととされる場合にあつては、当該他の不服申立てを提起しないでこの法律の施行前にこれを提起すべき期間を経過したものを含む）の訴えの提起については、なお従前の例による。

（前条の規定によりなお従前の例によることとされる場合を含む。）により異議申立てが提起された処分その他の行為であつて、この法律の規定による改正後の法律の規定により審査請求に対する裁決を経た後でなければ取消しの訴えを提起することができないこととされるもの取消しの訴えの提起については、なお従前の例による。

3 不服申立てに対する行政庁の裁決、決定その他の行為の取消しの訴えであつて、この法律の施行前に提起されたものについては、なお従前の例による。

（罰則に関する経過措置）
第九条 この法律の施行前にした行為並びに附則第五条及び前二条の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（その他の経過措置の政令への委任）
第十条 附則第五条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附則（平成二六年六月二七日法律第九一号）抄
この法律は、会社法の一部を改正する法律の施行の日から施行する。

附則（平成三一年三月二九日法律第六九号）抄

（施行期日）
第一条 この法律は、平成三十一年四月一日から施行する。

（罰則に関する経過措置）
第百十五條 この法律（附則第一条各号に掲げる規定にあつては、当該規定。以下この条において同じ。）の施行前にした行為及びこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（政令への委任）
第百十六條 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附則（令和元年二月二一日法律第七四号）抄
この法律は、会社法改正法の施行の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第九号中社債、株式等の振替に関する法律第二百六十九條の改正規定（第六十八條第二項）を「第八十六條第一項」に改める部分に限る。
二 第二十一條中民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律第五十六條第二項及び附則第四条の改正規定、第四十一條中保険業法附則第一条の二十四第一項の改正規定、第四十七條中保険業法等の一部を改正する法律附則第十六條第一項の改正規定、第五十一條中株式会社海外通信・放送・郵便事業支援機構法第二十七條の改正規定、第七十八條及び第七十九條の規定、第八十九條中農林中央金庫及び特定農水産業協同組合等による信用事業の再編及び強化に関する法律附則第二十六條第一項の改正規定並びに第二百二十四條及び第二百二十五條の規定。公布の日

二 第一条中外国法人の登記及び夫婦財産契約の登記に関する法律第四条の改正規定（次号に掲げる部分を除く。）、第六條の規定（同条中商業登記法第九十條の次に一條を加える改正規定及び同法第九十一條第二項の改正規定（「前条」を「第九十條」に改める部分に限る。）、並びに同号に掲げる改正規定を除く。）、第七條の規定、第十五條中一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第三百三十條の改正規定（同号に掲げる部分を除く。）、第十六條第五項の規定、第十七條中信託法第二百四十七條の改正規定

（同号に掲げる部分を除く。）、第十八條中職員団体等に対する法人格の付与に関する法律第五十八條の改正規定（「第十九條の二」の下に、「第十九條の三、第二十一條」を加え、「第十五号及び第十六号」を「第十四号及び第十五号」に改める部分、「同法第二十七條中「本店」とある部分を除く。）、を削る部分及び「事務所」との下に、「同法第十二條の二第五項中「営業所（会社にあつては、本店）」とあり、並びに同法第十七條第二項第一号及び第五十一條第一項中「本店」とあるのは「主たる事務所」とを、「選任された者」との下に、「同法第百四十六條の二中「商業登記法（）」とあるのは「職員団体等に対する法人格の付与に関する法律（昭和五十三年法律第八十号）第五十五條において準用する商業登記法（）」と、商業登記法第百四十五條」とあるのは「職員団体等に対する法人格の付与に関する法律第五十五條において準用する商業登記法第百四十五條」とを加える部分に限る。）、及び同法第六十條第六号中「隠ぺいした」を「隠蔽した」に改める改正規定、第九十條の規定、第二十五條中金融商品取引法第九十條の改正規定（次号に掲げる部分を除く。）、及び同法第百二條の十一の改正規定（次号に掲げる部分を除く。）、第二十六條の規定、第二十七條の規定（次号に掲げる改正規定を除く。）、第二十八條の規定、第三十二條中投資信託及び投資法人に関する法律第百七十七條の改正規定（次号に掲げる部分を除く。）、第三十四條中信用金庫法第八十五條の改正規定（「第二十七條まで（第二十四條第十六号を除く。）」を「第十九條の三まで」に、「印鑑の提出」を「第二十一條から第二十七條まで（第二十四條第十五号を除く。）」に改める部分及び「第十二條第一項」を「第十二條第一項」に改める部分に限る。）、第三十五條第四項の規定、第三十六條中労働金庫法第八十九條の改正規定（「第二十七條まで（第二十四條第十六号を除く。）」を「第十九條の三まで」に、「印鑑の提出」を「第二十一條から第二十七條まで（第二十四條第十五号を除く。）」に改める部分及び「第十二條第一項」を「第十二條第一項」に改める部分に限る。）、第三十七條第三項の規定、第四十一條中保険業法第六十七條の改正規定（次号に掲げる部分を除く。）、及び同法第二百十六條の改正規定（次号に掲げる部分を除く。）、第四十二條第十

（同号に掲げる部分を除く。）、第四十二條第十

一項の規定、第四十五条中資産の流動化に関する法律第八十三条第一項の改正規定（次号に掲げる部分を除く。）、第四十六号第九項の規定、第五十条の規定（次号に掲げる改正規定を除く。）、第五十六号中酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律第七十八号の改正規定（第二十七号まで（第二十四号第十五号及び第十六号を除く。）を「第十九号の三まで」に、「添付書面の特例、印鑑の提出」を「及び添付書面の特例、第二十一条から第二十七号まで（第二十四号第十四号及び第十五号を除く。）に改める部分に限る。）、第五十七号第三項の規定、第六十七号中宗教法第六十五号の改正規定（第十九号の二）の下に、「第十九号の三、第二十一条」を加え、「第十五号及び第十六号」を「第十四号及び第十五号」に改める部分及び「清算人」との下に、「同法第四百四十六号の二中「商業登記法」とあるのは「宗教法（昭和二十六年法律第二百二十六号）第六十五号において準用する商業登記法」と、「商業登記法第四百四十五号」とあるのは「宗教法第六十五号において準用する商業登記法第四百四十五号」と加える部分に限る。）、第六十八号の規定、第六十九号中消費生活協同組合法第九十二条の改正規定（第十七号から）の下に、「第十九号の三まで、第二十一条」を加え、「第十五号及び第十六号」を「第十四号及び第十五号」に改める部分及び「清算人」との下に、「同法第四百四十六号の二中「商業登記法」とあるのは「消費生活協同組合法（昭和二十三年法律第二百号）第九十二条において準用する商業登記法」と、「商業登記法第四百四十五号」とあるのは「消費生活協同組合法第九十二条において準用する商業登記法第四百四十五号」と加える部分に限る。）、第七十条第三項の規定、第八十条中農村負債整理組合法第二十四条第一項の改正規定（次号に掲げる部分を除く。）、第八十五号中漁船損害等補償法第八十三号の改正規定（第十七号から）の下に、「第十九号の三まで、第二十一条から」を加え、「第十五号及び第十六号」を「第十四号及び第十五号」に改める部分及び「清算人」との下に、「同法第四百四十六号の二中「商業登記法」とあるのは「漁船損害等補償法（昭和二十七年法律第二十八号）第八十三号において準用する商業登記法」と、「商業登記法第四百四十五号」とあるのは「漁船

損害等補償法第八十三号において準用する商業登記法第四百四十五号」と加える部分に限る。）、第八十六号の規定、第九十三号中小企業等協同組合法第九十三条の改正規定（次号に掲げる部分を除く。）、第九十四号第三項の規定、第九十六号中商品先物取引法第二十九条の改正規定（第十七号から）の下に、「第十九号の三まで、第二十一条から」を加え、「第十五号及び第十六号」を「第十四号及び第十五号」に改める部分に限る。）、第九十七号、第九十九号及び第一百一条の規定、第一百零二条中技術研究組合及び第六十八号の改正規定（次号に掲げる部分を除く。）、第一百零三条第三項の規定、第一百七号中投資事業有限責任組合契約に関する法律第三十三条の改正規定（第十九号の二）の下に、「第十九号の三、第二十一条」を加える部分に限る。）、第一百零八号の規定、第一百一十号中有限責任事業組合契約に関する法律第七十三号の改正規定（第十九号の二）の下に、「第十九号の三、第二十一条」を加える部分に限る。）、並びに第一百二十二号の規定、公布の日から起算して一年三月を超えない範囲内において政令で定める日

三 第一条中外国法人の登記及び夫婦財産契約の登記に関する法律第四条の改正規定（並びに第三十二条）を、「第三百三十二条から第三十七号まで並びに第三十九条」に改める部分に限る。）、第三条から第五条までの規定、第六号中商業登記法第七号の二、第十一条の二、第十五号、第十七号及び第十八号の改正規定、同法第四十八号の前の見出しを削る改正規定、同条から同法第五十条まで並びに同法第八十二条第二項及び第三項の改正規定、同条第四項の改正規定（本店の所在地における）を削る部分に限る。）、同法第八十七号第一項及び第二項並びに第九十一号第一項の改正規定、同条第二項の改正規定（本店の所在地における）を削る部分に限る。）、並びに同法第九十五号、第一百零一条、第一百零八号及び第一百零八号の改正規定、第九号中社債、株式等の振替に関する法律第一百五十一号第二項第一号の改正規定、同法第一百五十五号第一項の改正規定（以下この条）の下に、「及び第一百五十九号の二第二項第四号」を加える部分に限る。）、同法第一百五十九号の次に一条を加える改正規定、同法第二百二十八号第二項の表第五十九号第三項第一号の項の次に次のように加える改正規定、同法第二百三十五号第一項の改正規定（「まで」の下に、「第

百五十九号の二第二項第四号」を加える部分に限る。）、同条第二項の表第五十九号第一項の次に次のように加える改正規定及び同法第二百三十九号第二項の表に次のように加える改正規定、第十号第二項から第二十三項までの規定、第十一条中会社更生法第二百六十一条第一項後段を削る改正規定、第十四号中会社法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第四十六号の改正規定、第十五号中一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の目次の改正規定（従たる事務所の所在地における登記（第三百二十二条―第三百四十四条）を「削除」に改める部分に限る。）、同法第四十七号の次に五号を加える改正規定、同法第三百零一条第二項第四号の次に一号を加える改正規定、同法第六章第四節第三款、第三百五十五号及び第三百二十九号の改正規定、同法第三百三十号の改正規定（第四十九号から第五十二号まで）を「第五十一号、第五十二号」に、「及び第三百三十二条」を、「第三百三十二条から第三百三十七号まで及び第三百三十九号」に改め、「支店」とあるのは「従たる事務所」と削る部分に限る。）、並びに同法第三十四号第二十条の次に一号を加える改正規定、第四十七号中信託法第二百四十七号の改正規定（第三項を除く。）、第十八号の規定（前号に掲げる改正規定を除く。）、第二十二号及び第二十三号の規定、第二十五号中金融商品取引法第八十九条の三の改正規定、同法第八十九号の四第二項を削る改正規定、同法第九十条の改正規定（「第十七号から」の下に「第十九号の三まで、第二十一条から」を加え、「第十四号及び第十五号」を「第十三号から」に改める部分及び「読み替える」を「読み替える」と改める部分及び「商業登記法」とあるのは「金融商品取引法（昭和二十三年法律第二十五号）第九十条において準用する商業登記法」と、「商業登記法第四百四十五号」とあるのは「金融商品取引法第九十条において準用する商業登記法第四百四十五号」と読み替える」に改める部分を除く。）、同法第九十条の四、第一百零一条の二十第一項、第一百零二条第一項及び第一百零二条の十の改正規定、同法第一百零二条の十一の改正規定（第十七号から）の下に「第十九号の三まで、第二十一条から」を加え、「第十五号及び第十六号」を「第十四号及び第十五号」に改める部分、「及び第二十号

第三項」を削る部分及び「読み替える」を「同法第四百四十六号の二中「商業登記法」とあるのは「金融商品取引法（昭和二十三年法律第二十五号）第九十一条において準用する商業登記法」と、「商業登記法第四百四十五号」とあるのは「金融商品取引法第九十一条において準用する商業登記法第四百四十五号」と読み替える」に改める部分を除く。）、並びに同法第四百四十五号第一項及び第四百四十六号の改正規定、第二十七号中損害保険料率算出団体に関する法律第二十三条から第二十四条の二までの改正規定及び同法第二十五条の改正規定（第二十三号の二まで）を「第十九号の三まで（登記申請の方式、申請書の添付書面、申請書に添付すべき電磁的記録、添付書面の特例、第二十一条から）に、「第十五号及び第十六号」を「第十四号」に改める部分を除く。）、第三十二条中投資信託及び投資法人に関する法律第九十条第一項の改正規定（「第三百五号第一項本文及び第四項」の下に「から第六項まで」を加える部分を除く。）、同法第六十四号第四項の改正規定、同法第六十六号第二項第八号の次に一号を加える改正規定、同法第六十七号の改正規定（第二十条第一項及び第二項）を削る部分及び「同法第二十四号第七号中「若しくは第三十条第二項若しくは」とあるのは「若しくは」と削り、「第六十七号」とあるのは「同法第四百四十六号の二中「商業登記法」とあるのは「投資信託及び投資法人に関する法律（昭和二十六年法律第九十八号）第九十七号において準用する商業登記法」と、「商業登記法第四百四十五号」とあるのは「投資信託及び投資法人に関する法律第七十七号において準用する商業登記法第四百四十五号」と加える部分を除く。）、及び同法第二百四十九号第九号の次に一号を加える改正規定、第三十四号中信用金庫法の目次の改正規定（第四十八号の八）を「第四十八号の十三」に改める部分に限る。）、同法第四十六号第一項の改正規定、同法第四章第七節中第四十八号の八の次に五号を加える改正規定、同法第六十五号第二項、第七十四号から第七十六号まで及び第七十七号第四項の改正規定、同法第八十五号の改正規定（前号に掲げる部分を除く。）、同法第八十七号第四項の改正規定並びに同法第九十一条第一項第十二号の次に一号を加える改正規定、第三十六号中労働金庫法第七十八号から

附 則 (令和四年六月一七日法律第六八号) 抄

(施行期日)

1 この法律は、刑法等一部改正法施行日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- 一 第五百九条の規定 公布の日
-
-
-
-
-